

「面接を大切にしています。その方の表情や雰囲気を見ないとコーディネートはできないからです。また、その方の最初の一步の時にどう対応するかも大切です。問い合わせや訪問してくださった時がその方の気持ちが高く強い時であり、勇気を持って行動されているその時の気持ちを大事にしています。」

★ボランティア対応で心がけていることは？
 「大変というより、課題の一つがボランティアの高齢化です。ボランティア団体の活動を一つのライフサイクルと捉えると、立ち上がりがあり、成長期があり、安定期があり、最終期があります。ボランティア団体が生まれ立ち上がる時は、特別な支援が必要です。成長期には見守り、安定期には活動の自主性・主体性を尊重していただきます。そして終息期にあるボランティア団体に對しては、引き留めることに徹することではなく静かに終わることができるよう支援していかなくてはならないと、自分に言い聞かせています。」

※ボランティアとわたし※

このコーナーでは「ボランティアに関わる人」、「一人の人とボランティア」をテーマに様々な方へお話を伺っていきます♪今回は、小郡市ボランティア情報センターの三澤さんにインタビュー。



三澤明美さん

今年3月になって寒い日が続きました。今回のインタビューも2月の寒い日に、小郡市総合保健福祉センター「あすてらす」内にある、小郡市ボランティア情報センターの三澤明美さんを訪問しました。

インタビュー中も次から次に来客があり多忙な三澤さんでしたが、ボランティア活動に對する熱い思いを語っていただきました。



★「通信教育で福祉の勉強をしてきた時、実習で小郡市社会福祉協議会のボランティア情報センターにお世話になったのがきっかけです。就業して8年になります。」

★「この仕事で良かったことか？」
 「ボランティア活動に
 ①ボランティア活動に関する情報の収集および発信、②ボランティア活動の支援、③ボランティアの育成、④ボランティア登録・斡旋・コーディネート、⑤ボランティア団体のネットワーク形成、⑥ボランティア活動保険の窓口などを
 行っています。」

平成25年度は地域の皆さまに障害者への理解を深めていただくという思いで4回のボランティア講座を開催しました。初回は映画『ちづる』の上映、2回は視察、3回目は障害児タイムケア(※)の利用者の保護者とボランティアを囲んでの座談会、そして4回目は障害児タイムケアの参加。学生や若いお母さんから年配の方まで幅広い年齢層から多くの参加をいただきました。

「就業して間もない頃のこと。ボランティア活動をイキイキとされている60歳前後の方に出会った時のことです。その方は『私には夢がある。海外シルバークロム隊に行こうと思っています。』と目をキラキラさせて話されていました。その表情に『ボランティア活動は夢や希望を持たせてくれるものなんだ』と強いインパクトを受けました。

また、障害児タイムケアに長年継続して来てくださっているボランティアさんが、子どもの成長を喜ばれている姿に温かいものを感じたり、ボランティアさんと一緒に子どもの成長を見守っていくことができる一体感も、私の喜びの一つです。

他にも、障害児長期休暇スクールに参加した高校生が、途中から表情・態度・

★これからボランティアをされる方に何かメッセージを！
 「始めの一步に勇気がいると思います。私たちがお待ちしています。」

※障害児タイムケア：障害児の放課後預り

★インタビュー後記
 継続して見えてくるものがあり、それが自信につながる。と『継続は力なり』を座右の銘とされている三澤さん。
 ソフトな語り口の中にも意思の強さが感じられ熱い思いが伝わってきました。
 多忙中、貴重なお話の数々を頂きありがとうございます。(桑野・本)



東日本大震災とボランティア

被災地支援ボランティアは被災地での活動が2%、被災地以外での活動(物資の送り出しや募金活動)が5.1%、計7.1%の方が参加しました。参加者は男性の割合が若干女性を上回り、年齢は30~50代が多くなっています。調査結果では年収の高い人は被災地以外での活動、年収の低い(支援に時間を割く事が出来る)人は被災地での活動に多く参加しており、それぞれの生活に合わせた活動をしています。

また活動への参加の窓口で最も多かったのが「企業・団体」であり、社会全体が被災地支援に目を向けていることもわかります。

この調査結果から震災になった事は、ボランティア加入率の低下です。「未加入」は「不明」と合わせると82.9%となり、ほとんどの人が未加入という結果でした。

被災地での活動は、ボランティア自身が身を守る体制が整っていないまま参加し、かえって被害を広げるといふニュースもありました。余震も続く危険な環境下での活動にも関わらず、ボランティア自身の危機管理が問われる結果ともなりました。

震災から3年が経った今も、仮設住宅で暮らす人は約26万人。復興に向けて、まだまだ多くの支援が必要です。全社協の統計では、この3年間のボランティア参加者数は134万人を超えています。今後も、被災地で、被災地以外で、それぞれの生活や状況に合った形でボランティアを社会全体で継続していく必要があると考えさせられる結果でした。

【参考資料】
 労働政策研究所・研修機構
 「第六回勤労生活に関する調査」
 全国社会福祉協議会
 「被災地支援・災害ボランティア情報」

ボランティア募集!

聖ヨゼフ園では随時ボランティアに来てくださる方を募集しています。
活動内容：お話し相手、お散歩、ゲーム、朗読、音楽など様々です。
 詳しくはホームページ・ボランティアブログでもご覧いただけます!
 ⇒HP: <http://www.jiaikai-fuk.or.jp>

★お申込み・お問い合わせ★
 ⇒電話またはメールにてお待ちしております。

お気軽にどうぞ♪
 見学だけでも大歓迎です!